

【三原村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿勢

三原村では、デジタルドリルや協働学習ツールを活用して「個別最適な学び」と「協働的で主体的な学び」の実現を目指して取り組んでいる。さらに、今後より一層学習者や学習方法が多様化する中においても、児童生徒1人1人が自分自身の現状を把握し、より自分に合った学び方を決定していける、今以上の「主体的な学び」の育成を図っていく。

2 GIGA第1期の総括（令和3年度～6年度）

GIGA端末と通信環境の整備においては、令和2年度に1人1台端末の調達および1人1台のモバイルルーターを用意し、翌年令和3年度に児童生徒に貸与を行った。

令和5年度には教育ネットからのローカルブレイクアウトを実施し、高速通信環境整備も行い、1人1人が通信環境に困ることなく活用することができている。また、支援体制としては情報通信技術支援員を配置し、教職員および児童生徒のサポートを実施している。

小学校低学年時においても、その日の健康観察ツールやカメラ機能の活用、手書き入力や音声入力の活用で端末操作に慣れる機会を増やしつつ、中学年から高学年、中学生と学年が上がるごとに、その学年に応じた端末活用や児童生徒の学びに繋がることを目指して、日々その方法を模索しながら今後も取り組みを進めていくところである。

3 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末導入の効果を最大限に引き出すために、以下の点にも取り組む。

（1）教員と児童生徒の両面からのアプローチ

- 教員：ICTスキルアップ研修のための研修、実践的な指導方法の開発
- 児童生徒：個別最適な学習、協働学習、探求学習の促進、情報モラル・リテラシー・デジタルシティズンシップ教育の充実（以下「情報モラル等の教育」という）

（2）学習環境の整備と安全対策

- 環境：安定したネットワーク環境、適切なソフトウェアの選定、家庭学習との連携
- 安全：フィルタリングシステム、情報モラル等教育、トラブル対応マニュアル

（3）評価方法の多様化と継続的な改善

- 評価：多様な評価方法の導入
- 改善：定期的なアンケート、データ分析による改善

【1人1台端末の利活用指標および目標】

項目	評価の指標	目標値 (目標年度)
1人1台端末の 積極的活用	毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	100% (R6)
	ICT 支援員の配置	現状維持
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100% (R10)
個別最適・協働的な 学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台 端末を週3回以上使用させている学校の率	100% (R6)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する 場面において1人1台端末を週3回以上使用さ せている学校の率	80% (R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において 1人1台端末を週3回以上使用させている学校 の率	80% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人 1台端末を週3回以上使用させている学校	80% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて 課題に取り組む場面において1人1台端末を週 3回以上使用させている学校	80% (R8)
学びの保障	希望する不登校児童生徒への授業配信を実施し ている学校の率	100% (R8)
	希望する児童生徒への1人1台端末を活用した 教育相談を実施している学校の率	100% (R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に1 人1台端末を活用している学校の率	100% (R8)
	障がいのある児童生徒や病気療養児等、特別な支 援を要する児童生徒の実態等に応じて ICT を活 用した支援を実施している学校の率	100% (R8)